

品川支部

平成29年11月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
TEL 3442-7075

11月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

教区では「Better Half」の名称で 婚活支援プログラム設立

教区では、20歳から50歳くらいの方を対象に、婚活を支援するプログラムをスタート。

前身の「出会いの会」の経験を活かし、プライバシーに配慮したプログラムに変身させ、女性に応募しやすい環境を提供する事に行っているとの事。

来春から「婚活パーティ」が予定されていますので、まずは対象の方の登録が開始されました

<https://tenrikyo.tokyo/betterhalf.html>

又は教会配布のチラシ上のQRコードから登録可能です。



☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

十一月九日(木)午後六時〜都南にて

・教区ひのきしん

今回は本荘組です。十一月五日よりしくお願ひいたします

・神名流し

一日午前十時から大井町西口ロータリーにて
在宅センターひのきしん

十一月二十九日(水)午前十時〜
今年の在宅センターひのきしんは今回が納めの日の紀信となります。多くの方の参加を願ひ致します

・今月は移動例会で支部内の教会ではありません
(詳細二頁)

☆教務支庁からのお知らせ

◇基礎講座東京会場

十一月十二日(日)は品川支部が参加促進支部に当たりますので宜しく願ひ致します

◇ひのきしん講座

十月三十一日(火)九時から十六時迄
教務支庁の庭園ひのきしんを通して、植木の剪定の仕方等、庭園整備のコツを教えて頂きます。
参加は無料で昼食を用意して有ります。

婦人会だより

教区 女鳴物講習会

日時

十一月二十八、二十九日
午前十時〜三時
参加の方は琴爪、ハッピーの他
昼食は持参となります。

社友会から

十月二十五日は本部東礼拝場で一時から「感謝の集い」が行われ、おつとめの後、真柱様からお話を頂戴いたしました。
参加の方及び登録して頂いた手配りひのきしん者に対して、ネックウォーマー(マフラー)の記念品が贈られるとの事です。
支部と致しましても改めて感謝の集まりを計画する予定です。

少年会から

今年も、正月用にお年玉教材が用意されています。
今回は「メッセンジャーバッグ」で柔らかい素材の肩から掛けられるバッグで三色の中から選びます。頒布は一個三百八十円ですので、ご希望の方は期限が迫っておりますが、教会まで

拠点教会	5日号	12日号	19日号	26日号
日本橋	手配り	手配り	手配り	直送
本荘	手配り	手配り	手配り	直送
都南	手配り	手配り	手配り	直送
三ツ木	手配り	手配り	手配り	直送
水豊田	手配り	手配り	手配り	直送

品川支部移動例会

今月は移動例会の為、通常の形式の例会は有りません。

次回12月は、日本橋大教会での納めの例会を21日11時に予定しております。 毎年、特別な食事をご用意頂いておりますので、是非12月は賑やかに本年を収めたいと思っておりますので、大勢の方のご参加、お待ちしております。

教会紹介

本大崎教会元一日



本大崎の元一日は私の母・美代に「にをい」がかかった事から始まりです。

関口美代は静岡県磐田郡佐久間町に生まれ、十六歳の頃紹介されて目黒区元競馬場に住む三輪家に家政婦として住込み、寝たきりであった主・重太郎と妻の世話をするうち、大変気に入られ息子の三郎と結婚してくれよう頼まれる。二人を看取った後、昭和九年五月二十日に、三輪三郎と結婚、目黒区月光町(現・目黒本町辺り)にある三郎の自宅にて夫婦二人で暮らし始める。三郎は親が残した家作を数軒所有し働かなくても暮らしていた。

美代の脊椎カリエスは次第に重くなり、医者の方から薬は効かず、全身に広がる倦怠感と鈍痛に耐えて横になつていく日々、二歳になろうという医者通いの絶えない脩の世話をすることも満足に出来ず横になつていくだけの自分。そんな毎日にもんもんとした心を抱えていた。

そんな美代に、隣に住む吉田スサは熱心に天理教のおさづけを勧めた。「宗教は嫌いだから結構です。そういう話しなら、もう来てくれるな」と美代は断るが、断つてもことわつても吉田スサは毎日やつて来た。ある時美代は「そんなに言うなら、やつてごらんさいよ!」と言つてしまい、おさづけを受けることになる。おさづけの取次が終わり、拜んで戴いた御礼を渡した時、それ迄の身体の痛みが「すうー」と引いていく気持ちの良さに「ああ、自分はこの神様にたすけて頂くしかないのかなあ」と思つた。

三郎は直ぐに吉田スサの所属教会・本荏原分教会に行くが、教会長・鈴木シカノ先生が居られた。教えを請うと諄々と神様のお話を下さつた。

その教えの素晴らしさに感銘を受けた三郎は、その場で入信を誓い翌日より日参を開始する。

一方、美代はその五カ月後の十月に初席を運んでいる。脊椎カリエスの身上は、この時代におぢばがえりが出来る程にご守護頂いていた。更に十四年一月、もう子供は産めないと言われていたが無事に長女・英子を授けた。

三郎は日参を続けるうちに段々と自己の因縁(養子先を飛び出した相違)を自覚するようになり、長男・脩の身上の事もあつて、ついにたすけ一条の道を歩む事を決意。持つてくる全てをお供えし昭和十五年三月、一家四人で別科に入学した。同年八月別科を卒業後、そのまま四人で本荏原分教会に住込み、一年後の八月、東大崎三丁目(現・本大崎分教会所在地)に住む大和久家の二階三畳間を間借りし、美代は二人の子供を連れて布教を開始した。

翌十七年三月十三日、荏原布教所のお許しを頂くが翌年、三郎は満州へ出征した。終戦後、美代は焼けあとの木材を集めて組み建て、二人の子供とそこに暮らした。屋内では立つことも出来ない物だったが、後に復員して来た三郎がこれを五坪の家にした。三郎はまた本荏原に住込み、美代は子供を連れて布教に明け暮れる。戦争前と同じ道中に戻つた。その後少しずつ信者も出来、次第に教勢も発展し、昭和二十七年八月二十六日、本芝大教会長様のご命に依り教会設立の運びとなり、三郎が初代会長に就任した。以後二代会長に脩、三代に美代、平成二十二年より私が四代目の教会長を勤めさせて頂いて居ります。何分にも届きません者ですので、只今は上級に日参させて頂き大教会ではひのきしん等させて頂き、この神様の話を相手の心に届けられるよう、理づくり伏せ込みの日です。